

## 【 推計など今後の見通し 】

No	質問	回答
1	児童の今後の増え方はどのような想定であるのか。	転入により各学年で児童が増えるの見込んでいますが、主として新入生の増加を想定しています。
2	今後、児童生徒の増加が継続した場合、さらに教室が不足する事態とはならないのか。	令和11年4月に開設する晴海西小学校第二校舎(以下、第二校舎という)は最大30室の普通教室を整備する予定です。既存校舎の60室と合わせると90室確保でき、推計において必要教室数が90室を上回ることは想定されないことから、教室がさらに不足する事態とはならないと考えています。
3	令和8年度に入学する新1年生は、何人と推計しているのか。	暫定版の推計では、303人と推計しています。 (※)7月下旬に確定した推計では、307人と推計しています。
4	想定以上のスピードで子どもが増えているとのことだったが、大規模開発物件への入居者数をどのように推計したのか教えてほしい。また、デベロッパーとはどのような情報共有をして推計していたのか。	物件の間取りから想定入居者数を算出し、世帯人数を推計しています。想定入居者数は過去の入居実績などから導き出すものですが、HARUMI FLAGは非常に広い床面積の住戸が多く整備されたこともあり、想定入居者数と実態とが乖離してしまったのではないかと考えています。また、転入予定者向けのアンケートも実施し、その結果を反映させたものの、アンケート結果以上の転入があったものと分析しています。 デベロッパーとの情報共有に関しては、物件の間取りやその戸数の共有は受けていたものの、入居世帯や人数などの情報の共有は困難です。あくまでも想定入居者数をベースに推計を作成しています。
5	小学生がそのまま中学生になったとき、中学校がかなり狭隘化すると考えられるが、問題ないのか。中学校の増築棟を整備する事態とはならないのか。	推計の作成にあたっては、小学生中学生ともに就学率を乗じて計算しています。私立中学校等に進学する児童も一定数いる状況であることから、教室をさらに増設することなく対応できると考えています。

## 【 オープンスペースの改修工事 】

No	質問	回答
1	具体的な工事内容を教えてほしい。	折り戸でオープンスペースを覆い、白板を配置する箇所には壁を設置します。採光や防音性は問題ないため、既存の普通教室と同等であると考えていただいて差し支えありません。
2	児童生徒への説明機会は何か考えているか。	オープンスペースを改修することで校内の活動スペースが狭くなり、児童生徒の動線に制約が出ることも想定されることから、全校集会をはじめ、担任の先生からの説明を中心に注意喚起を行います。
3	オープンスペースは現状どのように使っているのか。増築棟解体後も普通教室として使うのか。	学年交流や児童らが体を動かす授業の際に使用しています。工事期間中は使えなくなりますが、既存の普通教室の扉は全て開くように作られており、廊下と連続させればオープンスペースとして使うことができます。また、武道場やランチルームなどの活用も検討していきます。 増築棟解体後も普通教室として使用していきますが、折り戸を開くことでオープンスペースとして使用することができるため、柔軟に運用していきます。
4	平日の工事の終了時間は何時を見込んでいるのか。	午後9時頃までの作業を予定しています。

## 【 第二校舎の運営など 】

No	質問	回答
1	第二校舎を低学年専用とすることで異学年交流などに制限がかかり、子どもたちの学びの環境が失われてしまうのではないかと懸念がある。第二校舎での学校運営はどのように考えているのか。	第二校舎として運営することで、他の学校と違う特色を出せるのではないかと期待しています。校舎間での移動は多少発生すると思われませんが、児童が不安にならない運営方法を考え、児童にとってより良い教育環境を整備していきます。また、現在でもオンライン環境を活用した全校集会を実施しており、第二校舎開設後もこのような工夫をすることで異学年交流などもスムーズに実施できると考えています。

2	晴海四丁目に整備する学校を新校としなかった理由を教えてください。	検討開始当初は新校の開校を検討していましたが、通学区域の変更による影響の大きさや将来の施設転用を考慮し、晴海西小学校の第二校舎として計画を進めることとしました。
3	低学年児童が大きな幹線道路を横断することになることから、第二校舎までの通学路の安全確保に懸念がある。	学校周辺の交通事情を把握した上で、安全が十分確保できる通学路を設定していきます。
4	第二校舎に関する説明会は今後開催するのか。	現時点では考えていませんが、開催について検討します。
5	第二校舎を高学年専用にしなかった理由は何か。	高学年児童と中学生が既存校舎で生活することで、小学校から中学校へのスムーズな接続が可能になると考えています。 また、既存校舎は中学生の部活動などもあり、運動場が使用できず放課後の児童の遊び場に制限が出てしまうケースがあります。第二校舎を低学年専用とすることで確実に放課後の居場所が確保できることから、第二校舎を低学年専用とする意義は大きいと考えています。
6	令和11年4月の開設を前倒すことはできないのか。	当初は令和12年4月の開設を予定していたところ、工期の調整により開設時期を1年前倒しました。令和8年度中の工事契約の締結を予定しており、現在は実施設計の段階で、国に対する申請の準備をしている状況です。工期に2～3年かかることを踏まえると、これ以上前倒すことは難しいです。
7	第二校舎は中学生が使うことも想定して設計しているのか。	低学年専用校舎として設計していることから、家庭科室や理科室がありません。したがって、中学生の通学を念頭において設計していません。
8	第二校舎の使い方の将来的な展望を教えてください。	将来的にも低学年が使用する予定であり、児童生徒を既存校舎で受け入れられない状況が続く限りは第二校舎を使用していきます。
9	通学距離や通学時間を踏まえると、第二校舎に低学年が通学するのは合理的ではないように思えるが、どのように考えているのか。	区内には1km以上の通学路が設定されている小学校もあります。第二校舎への通学に際しては晴海小頭公園近くの住居が最も距離がありますが、およそ900m程度であり、他校と比較して著しく遠く、時間がかかるわけではありません。以上のことから、無理のない計画であると考えています。
10	第二校舎の建設工事が遅れ、令和11年4月の開設が遅れることはないのか。	予期せぬ事態が起こらないとは言い切れませんが、リスク管理をしっかり行い、関係各所と綿密に連携しながら着実に工事を進めてまいります。

11	第二校舎はどのような設備になるのか。運動場や体育館などは全て揃っていて、既存校舎の設備と同じという認識でよいか。	低学年が使用しない理科室と家庭科室はありませんが、体育館や図書室、給食室など児童の学校生活に必要な諸室は全て整備することから、第二校舎のみで学校生活は完結します。
12	第二校舎における教員の配置はどうなるのか。	低学年を担当する教員が第二校舎に常駐します。養護教諭も第二校舎に配置することから、既存校舎での学校生活は第二校舎でも同様に行えると考えていただいて差し支えありません。
13	第二校舎の通学について、学校までの距離が遠いことから、誘導員の配置は検討しているのか。	登下校時には、誘導員を配置する予定です。

### 【 仮設増築棟 】

No	質問	回答
1	仮設増築棟の配膳室にエアコンは設置されるのか。	設備などの細かい部分は今後の設計業務の中で決定していきますが、既存校舎と同等の設えで整備します。
2	仮設増築棟の工事車両はどこに停めるのか。	詳細は今後決定していきますが、児童生徒の安全確保を第一に考えて検討します。
3	仮設増築棟の使用前に、校舎内を見学することはできるのか。	実際に内部を見学できるかどうかは今後検討していきますが、内部写真などは区ホームページに掲載するなどして公開していきます。
4	仮設増築棟の耐震性は問題ないのか。	プレハブ建築ではありますが、通常の学校と同様の耐震性を備えた校舎を建設します。
5	仮設増築棟のセキュリティと防犯対策は問題ないのか。	現在も学校関係者ではない者は運動場内に入れなくなっているため、問題ないと考えています。増築棟の入口をどこに設置するかは今後の検討事項ですが、鍵の施錠などは万全に実施していきます。

6	プレハブ建築ということで、断熱性に懸念がある。また、仮設増築棟を小学校1年生が使用するということが不安を覚えるが、過去の事例等に基づいて小学校1年生が使用しても問題ないと結論付けているのか。	断熱性については、壁や天井に断熱材を適切に使用し、併せて空調設備を整えることで室内の温度管理が適切に行えるものと考えており、特段の問題はないと認識しています。 小学校1年生の使用については、過去には城東小学校及び阪本小学校の改築工事中に小学校1年生が仮設校舎を使用したという事例があります。他にも、明石小学校・幼稚園の改築工事中に児童・園児が仮設校舎を使用したという事例もあります。これらの事例やノウハウを踏まえながら、事業者とも協議し、安全対策を徹底していきます。
7	仮設増築棟の工事時間はどのくらいを見込んでいるのか。	工期の関係上、授業中も工事を行います。既存校舎の窓は遮音性の高いものを使用していますが、騒音については最大限配慮しながら工事を行っていきます。
8	仮設増築棟の整備に際して、既存校舎に日照が当たらないという事態にはならないのか。	増築棟は2階建てであり、既存校舎の児童は2階以上で学校生活を送っていることから、大きな影響はないものと考えています。
9	仮設増築棟の工事中の防犯対策は何か考えているのか。	工事車両の出入り口には警備員を配置します。また、通常時から校門は電気錠などで施錠しており、工事中もその対応は変わりません。必要な場所には人員を配置することで、万全な防犯対策を講じていきます。

## 【 代替運動場 】

No	質問	回答
1	代替運動場はどの学年が使うのか。	現段階では中学生の体育の授業での使用を想定しています。中学校は授業間の休み時間が10分あるため、授業への影響が少ないと考えています。
2	代替運動場への移動経路は安全が担保されるのか。また、いつ頃決定するのか。	移動経路については、児童生徒の安全確保が第一と考えています。明確な決定時期はお示ししかねますが、環状2号線を横断するルートではなく、晴海緑道公園を通るルートを想定しています。
3	代替運動場は、第二校舎が開設した後はどのように使用するのか。	第二校舎の開設に向けて代替運動場は再整備(工事)し、第二校舎の運動場とします。したがって、運動場の仕様も代替運動場はゴムチップ、第二校舎の運動場は人工芝とそれぞれ異なる想定です。

4	代替運動場の建設予定時期はいつか。	仮設増築棟の工事が令和8年7月から始まる予定です。仮設増築棟の工事開始時期と代替運動場の使用開始時期を合わせるような形で進めていきます。
---	-------------------	--

## 【 学校運営 】

No	質問	回答
1	運動場が狭くなるとのことだが、小学校の体育の授業は問題なく実施できるよう配慮されるのか。	小学校の体育授業は中学校側運動場を使用する他、屋上運動場も使用するなどして展開していく考えです。2クラス合同での授業も検討し、これらの対応をとることで問題なく体育授業が展開できると考えています。
2	運動場が狭くなってしまうが、運動会など運動場をメインに使用する学校行事はどのように実施するのか。	これまで同様、運動会は中学校側運動場を使用する予定です。運動場が狭くなることで制約が生じてしまう可能性はありますが、さまざまな工夫をすることで対応していきます。
3	仮設増築棟を整備することで運動場が使えなくなり、中学生の部活動に制限が出ることに懸念がある。	それぞれの部活動の活動内容にもよりますが、代替運動場での活動も想定しています。
4	運動場が狭くなることで子どもたちの遊び場が減ると思うが、具体的な対策は考えているのか。	現在でも中休み・昼休み等は運動場で遊ぶ学年、体育館で遊ぶ学年、教室で遊ぶ学年と分けて運営しています。代替運動場が整備された後も、このような運用方法を想定しています。現在は小学校と中学校とで時程がずれていることで、中学校の体育授業が小学校の中休みと重なったりすると小学生が十分に運動場で遊べないというケースもありますが、代替運動場が整備されたのちには解消できるものと考えています。
5	必要な教員は確保できるのか。	教員の確保は東京都教育委員会が実施しています。学級数に対してそれに応じた定数の教員が配置される仕組みになっているので、不足なく配置できるものと考えています。
6	晴海西小学校と晴海西中学校を取り巻く環境は変化が激しいと思うが、今後の学校運営について将来的なビジョンはあるのか。	現在、若手の教員を中心としたプロジェクトチームを立ち上げ、授業スタイルなどこれまで当たり前だったことを見直し、児童にとってより良い教育環境を考える場を作っています。第二校舎の開設によって小学校が分かれたり、仮設増築棟ができたりと変化の激しい状況の中で、晴海西小学校ならではの教育活動を若手教員の新しい発想と考えのなかで議論し、実践していきたいと考えています。

## 【給食】

No	質問	回答
1	令和9年度と令和10年度に給食が不足するとのことだが、令和11年度以降の給食提供はどのように考えているのか。	令和11年度に開設する第二校舎には、今後増加する児童を見込んだ調理量に対応できる給食室を整備するため、令和11年度以降も問題なく提供できると考えています。
2	他校調理給食に関して、献立はどうか。	両校の栄養士が調整している段階であり詳細は今後決定していきますが、可能であれば有馬小学校と晴海西小学校とで同じ献立にできるよう検討しています。
3	給食運搬における安全対策はどのように考えているのか。	断熱効果の高い構造のステンレス二重食缶を使用し、保温・保冷ともに万全の温度管理を行った上で、給食運搬用の密閉できるコンテナに食缶を収納して運搬します。運搬車両の具体的な仕様は未定ですが、温度管理、衛生管理に最大限配慮していきます。
4	給食運搬は業者委託するのか。	業者に委託します。
5	給食提供予定学年の検討過程において、高学年への提供は検討しなかったのか。	高学年は一人あたりの調理量が多く、有馬小学校の負担が重くなることから、提供予定学年の対象から外して検討してきました。一方で、低学年は中学年、高学年と比較すると調理量が少なく、有馬小学校の負担を軽減することができるため、低学年を念頭に検討してきたものです。
6	運搬給食の試食会などは実施するのか。	実施可否も含めて検討していきます。
7	過去に、中央区で給食を運搬した実績はあるのか。	平成24年度に日本橋中学校の給食室を改修した際に、工事中の一学期中のみ佃中学校から日本橋中学校へ給食を搬出した実績があります。他区においても今回のような形式の導入実績があるため、他区の事例も参考にしながら万全な対策をとっていきます。

## 【 プレディプラスの運営 】

No	質問	回答
1	児童の増加に伴ってプレディの利用者が増えることも想定されるが、現状何人利用していて、活動場所はどこなのか。また、今後活動場所を変更する予定はあるのか。	4月当初の時点では、平日の平均利用人数がプレディで150人程度、学童クラブは140人程度となっています。活動場所は、1階にあるランチルームとプレディプラスルームを中心に、図書室や礼法室なども使用しています。今後については、現在使用している活動場所で運営を続けていく予定ですが、状況に応じて学校とも協議しながら活動場所について検討していきます。
2	プレディの活動について、現在でも利用者が多く、子どもたちにとって良好な環境とは言い難いと思うので、迅速な対応をお願いしたい。	ご意見を踏まえながら対応していきます。
3	運動場が狭くなることでプレディの活動場所が制限されるかと思うが、具体的な対策は考えているのか。	検討中の段階ですが、屋上運動場を活用することも想定しています。放課後の活動場所については、学校とも協議しながら検討していきます。
4	学童クラブの定員が現在においても一杯の状況と見受けられるが、今後枠を拡大していくなどの対応は検討しているのか。	第二校舎内にもプレディプラスの活動部屋を整備する予定であり、第二校舎開設時に学童クラブの定員を拡充していけると考えています。また、第二校舎開設までの間も学校と協議しながら、児童にとってより良い環境を提供できるよう努めていきます。
5	小学校1～3年生の低学年児童は第二校舎のプレディプラスしか利用できないのか。きょうだい別々の校舎に通学している場合に、片方の校舎できょうだいと一緒に過ごすことはできないのか。	運用方法を検討中の段階であり、確定的なことは申し上げられませんが、通学している校舎の中で安全に過ごしてもらうという観点からも、1～3年生は第二校舎のプレディプラスを、4～6年生は既存校舎のプレディプラスをそれぞれ利用してもらうことを想定しています。ただ、お子さんが異なる校舎で放課後の時間を過ごすことで、お迎えをする保護者に負担がかかることは課題として認識しており、どのような運用が可能であるか検討していきます。

【 その他 】

No	質問	回答
1	一連の対策にかかる予算はどれくらいか。	仮設増築棟の建設費でおよそ6億9千万円の見込みです。その他、代替運動場の整備や給食の運搬などにも費用はかかりますが、現段階では詳細は決まっていない状況です。
2	第二校舎の敷地に中学校を建設し、現在の晴海西小・中学校の敷地に大規模な小学校を建設する考えはなかったのか。	晴海地区の人口増加にあたっては、「小学校2校分、中学校1校」の整備が必要であるとの考えの下、まずは小学校1校と中学校1校を整備しました。将来的には小学校が狭隘化すると推計していたことから、もう一つの小学校は人口動態を見ながら開設時期を判断するとしていましたが、開校まもなく狭隘化するような推計結果ではありませんでした。したがって、晴海五丁目に建設する学校については、小学校と中学校が一体となった学校を整備したものです。
3	今年度4歳になる子どもは毎年通学する校舎が変わることで心理的負担も大きいと思うが、何か対応策は考えているのか。	たしかに負担となる部分もあるかと思いますが、今年度4歳になるお子さんは、小学校3年生のときに第二校舎に通学してもらうこととなります。小学校3年生は第二校舎における最高学年であることから、第二校舎の使い方や低学年児童との関わり方などを自分たち自身で考えてもらい、リーダーシップを発揮できるチャンスとして捉えていきます。
4	通学区域の変更は検討したのか。例えば、新入生を他校に通学させるなどして児童を分散させるような方法は検討しなかったのか。	他校のキャパシティの問題もあり、通学区域の変更は難しいです。今後、改築等により他校の学校規模が大きくなれば変更の検討を進められるかと思いますが、現時点で検討できる状況ではありません。
5	代替運動場を整備する敷地に仮設増築棟を整備すればいいのではないか。	代替運動場を整備する敷地は、第二校舎を整備する敷地です。代替運動場の敷地に仮設増築棟を整備したとしても、仮設増築棟の使用を開始する令和9年度には第二校舎の建設工事を行っており、工事が本格的に進んできた段階で仮設増築棟が使用できなくなってしまう。 また、体育館等の利用に際して既存校舎への移動が必要となり、授業の実施に係る学校運営上の負担が大きいです。以上のことから、代替運動場を整備する敷地に仮設増築棟を整備することは困難です。
6	仮設増築棟ができた際に、子ども一人あたりの運動場の面積は他校と比較してどのくらいか。	仮設増築棟の整備により既存校舎の運動場面積はたしかに小さくなりますが、代替運動場を整備することで児童生徒の運動スペースを確保できることから、他校と比較して過剰に小さいというわけではありません。

7	特認校で他校への進学を希望した際、優先的に入学できる等の配慮はしてもらえるのか。	本計画による優先枠については検討していません。仮設増築棟においても、十分な教育活動を受けられるような環境を確保していきます。
---	--	--